

# 令和元年度

## 教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

### 宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

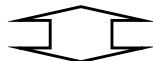
#### 目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

#### 目標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



## ◆ 大河原町教育振興基本計画 ◆

### 「笑顔」「元気」「学び」

～ 志を高め 学び継ぐ ひとづくり ～



大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場に必要な人材を育成していく「ひとづくり」が不可欠になっています。

そのために大河原町教育振興基本計画では、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

#### ◆ 目指す姿

- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 1. 生涯学習の姿   | 生き生きと学ぶ町民                |
| 2. 家庭・地域の姿  | 明るい家庭 支える声が響く地域          |
| 3. 子供の姿     | 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供 |
| 4. 学校・教職員の姿 | 信頼される学校・教職員              |

#### ◆ 教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

# 大河原町の教育の基本的方向と令和元年度重点的取組

## 1. 生涯学習の姿 【目標】生き生きと学ぶ町民

### ◆基本的方向 1 持続可能な生涯学習の拠点整備

#### 施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

#### 主な具体策

- ①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
- ②「絵本と学びのへや」を中心とした図書館事業展開
- ③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供
- ④金ヶ瀬公民館を拠点とした金ヶ瀬地区の未来型コミュニティづくり

### 令和元年度重点的取組

施 策	(1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
主な具体策	①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
目的・目標	・複合化施設「にぎわい交流施設」として生まれ変わった中央公民館を拠点とし、町民の教養向上だけではなく、元気な高齢者を増やし、まちづくりへの参画、ボランティア活動への参加など、人材育成から地域の活性化につなげていく。
重点的取組	・高齢者講座を発展させた『ゆうゆう大学』（仮称）を開講し、様々な分野を学ぶことで新たな生きがいをつくり、さらに共に学ぶことで交流を図り元気な高齢者を増やしていく。 ・町の有識者や専門家に依頼し、郷土史講座や大人向けの昆虫講座など定期的に関講することで、その修了者が講師となって地域を支える担い手になるような学習環境を提供する。

### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	「生涯学習の充実」に対する満足度（5段階評価）	3.1	3.2	3.5
2	中央公民館年間来館者数	30,435人	21,580人	33,500人
3	金ヶ瀬公民館年間来館者数	11,084人	8,193人	12,200人
4	図書関係貸出資料数	70,025点	77,386点	75,000点
5	「絵本と学びのへや」年間来館者数	—	14,534人	15,000人
6	放送大学利用者数	—	61人	300人

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央公民館では、新たな講座として『大河原町民大学』で3講座として「大人のための昆虫学入門講座」「故郷の歴史を調べよう」「ゆうゆう学園」を開催した。受講者については、終了証を授与し、地域を支える担い手になるような人材育成も含めた学習環境を提供できた。</li> <li>金ケ瀬公民館では、空調設備としてエアコンを大集会室、ロビー、調理実習室に設置し、にぎわい創出を図るための設備として、また、災害時の避難所としての防災機能を高めたもの。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央公民館のリニューアル工事中に使用場所を変更した団体の利用について、如何にして中央公民館の部屋利用に戻っていただけるか、今後、魅力ある施設環境づくりが課題である。 また、町民大学受講者について、受講して終了ではなく、次なる地域を支える担い手になっていくようなアプローチが課題である。</li> <li>金ケ瀬公民館主催事業「子ども夏まつり」は、公民館利用者のボランティアの方に運営支援をいただき実施しておりましたが、ボランティアの高齢化などにより人手不足が深刻化し、今後、この事業の継続が危惧される。</li> <li>中央公民館、金ケ瀬公民館の来館者数が減となっている要因として、10月の台風19号による影響と、2月からの新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられる。今後、新しい生活様式に沿った利用促進を図る対策が課題となる。</li> </ul>								
<b>内部評価</b>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="336 1099 496 1133">A</td> <td data-bbox="501 1099 1372 1133">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1140 496 1173">B</td> <td data-bbox="501 1140 1372 1173">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="236 1180 260 1214">B</td> <td data-bbox="501 1180 1372 1214">C 目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1220 496 1238">D</td> <td data-bbox="501 1220 1372 1238">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	B	C 目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
B	C 目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<b>外部評価</b>	<p><b>B</b></p> <p>◇コロナの影響で、公民館来館者数は少なかったが、「図書関係貸出資料数」は、2022年度の目標数を超える貸出しが行われたことは良かった。また、「絵本と学びのへや」来館者数も2022年度目標値に迫るものだった。ただ、放送大学利用者数が少ない。もっと広く町民に放送大学の魅力を知らせ、大河原に居ながらにして、大学教育を受けることができる喜びの声を知らせて欲しい。</p> <p>◇新企画「大河原町民大学」の3講座は、町の人材育成の為、大きな役割を果たした。</p> <p>□中央公民館、金ケ瀬公民館共に台風19号や新型コロナウイルスの影響により、来館者数こそ減少したものの、講座の開催や空調設備等の整備、防災機能が高まったことにより、地域の活性化や未来型コミュニティづくりに繋がった。</p> <p>□今のことも、先のことも考えて事業を進めており、その結果を高く評価したい。</p>								

## ◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

### 施策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

### 主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
- ⑧常設展示施設（千本桜記念館（仮称））を確保し、町の歴史に思いを寄せ、町民意識を育む。

### 令和元年度重点的取組

施策	(1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進 ⑧常設展示施設（千本桜記念館「仮称」）を確保し、町の歴史に思いを寄せ、町民意識を育む
目的・目標	・町内の自然、風土、歴史、文化的遺産等の文化財を未来の子供たちに継承するとともに、貴重な学習資源ととらえ、学校の体験学習・調べ学習等、幅広い教育活動に活用する。
重点的取組	・文化財や伝統文化等の保存、継承と整備を行い、積極的に活用促進を図る。 ・常設展示場を設置し、本町の歴史に学ぶとともに、まちの魅力の再発見及び貴重な昆虫標本の展示や観光情報の発信に努める。

### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	「文化・芸術の振興」に対する満足度（5段階評価）	3.3	3.4	3.5
2	民俗資料収蔵室年間来館者数	66人	226人	20%増加
3	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	実施	継続して実施
4	はたらく館への来場者数	—	—	250人
5	学芸員の配置	—	—	1人

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の適切な保護と普及活動の為の事業推進として、民俗資料収蔵室の活用を図るため一般公開や見学の際の施設開放を行い、希望団体や個人の方に見学をしていただくことで民俗資料の保護・保存について理解を深めていただくことができた。</li> <li>・小学校の「昔の暮らし」の単元で、調べ学習など学校教育活動に活用していただくことができた。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗資料収蔵室のPRや見学しやすい環境整備に努め、更なる見学者数の増加を図ることが課題である。</li> <li>・民俗資料に関する企画展の実施を行う。</li> <li>・史跡説明版・標柱の設置や修繕を行い、文化財の普及啓発を行う。</li> </ul>	
<b>内部評価</b>	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
<b>B</b>	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
<b>外部評価</b>	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇民俗資料収蔵室の年間来館者数が、大幅に増加したことは大変喜ばしい。</li> <li>◇「はたらく館」内の教育施設が利用できるよう、消防設備を早急に整えて欲しい。</li> <li>◇常設展示施設を設置できるよう、継続努力してほしい。併せて、展示施設の管理及び展示物等の説明をする学芸員補助的な方の配置も検討してほしい。</li> </ul> <p>□一般公開や見学を実施した民俗資料収蔵室は、年間来客者数が増加し、小学生への調べ学習の学校教育活動に大いに活用された。</p> <p>□民俗資料収蔵室を児童が見学し、どのようなことを思ったか、反応したかを掲示板等で知らせてほしい。</p>	

### ◆基本的方向3 スポーツ振興による健康増進の推進

#### 施策

- (1) スポーツ、レクリエーション活動による健康づくり
- (2) 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組

#### 主な具体策

- ⑨総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
- ⑩町民レクリエーション大会の実施
- ⑪夏休み小学生スポーツ大会の実施
- ⑫大河原クロスカントリー大会の実施
- ⑬地域コミュニティ強化のための行政区スポーツレクリエーション活動奨励事業の補助金交付
- ⑭スポーツ少年団の育成と活動の支援
- ⑮学校体育施設開放と活用の推進
- ⑯体育施設の効率的な維持・管理
- ⑰体育協会の活動支援

#### 令和元年度重点的取組

施策	(1) スポーツ、レクリエーション活動による健康づくり
主な具体策	⑯体育施設の効率的な維持・管理
目的・目標	スポーツ施設の安全で快適な環境づくりを進め、町民のスポーツ活動の推進を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化が進む総合体育館の建物・設備の効率的かつ計画的な修繕を進めていく。</li> <li>・総合体育館のLED照明化や、音響設備、監視装置等の更新を検討し、快適な環境づくりとコスト削減を進めていく。</li> </ul>

#### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	「スポーツの振興」に対する満足度(5段階評価)	3.3	3.3	3.5
2	体育施設(総合体育館及び東部運動場)の年間利用者合計	116,058人	85,189人	122,000人
3	学校開放の年間利用団体合計	64団体	60団体	70団体

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合体育館の駐車場枠の車線引き直しを行った。また、障がい者用駐車スペースを1台から3台に増やし、快適な利用促進を図った。</li> <li>・老朽化したキュービクル（変電設備）更新工事及び総合体育館のLED照明化に向けた予算措置を行い、次年度実施への準備作業を行った。</li> <li>・総合体育館入口の歩道樹木が大木となったため、伐採を行った。これにより、来客のスムーズな出入りが可能となった。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設（総合体育館及び東部運動場）の年間利用者合計が減となっている要因として、10月の台風19号による影響と、2月からの新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられる。 今後、新しい生活様式に沿った利用促進を図る対策が課題となる。</li> <li>・新型コロナウイルスに伴う感染防止対策と施設利用者数の確保の両立。</li> </ul>								
<b>内部評価</b>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="336 853 496 887">A</td> <td data-bbox="501 853 1374 887">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 893 496 927">B</td> <td data-bbox="501 893 1374 927">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="236 934 261 967"><b>B</b></td> <td data-bbox="501 934 1374 967">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 974 496 992">D</td> <td data-bbox="501 974 1374 992">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	<b>B</b>	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
<b>B</b>	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<b>外部評価</b>	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇総合体育館の障がい者用駐車スペースを3台に増設したことは、大変良かった。</li> <li>◇総合体育館入口付近の歩道の樹木が、利用者の活動を制限するものとなっていたが、伐採して頂き、スムーズに歩行できるようになった。</li> <li>◇新型コロナウイルス対応を考慮した、施設利用基準等、新たな利用方法を考える必要がある。</li> </ul> <p>□次年度に向けての準備作業により、体育施設の効率的な維持管理が行われた。併せて、新型コロナウイルスに伴う感染防止対策（柔剣道やトレーニングルーム）に努め、新しい生活様式に沿った利用促進を図っている。</p>								

## 2. 家庭・地域の姿 【目標】 明るい家庭 支える声が響く地域

### ◆基本的方向4 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

#### 施策

(1) 地域学校協働活動，コミュニティ・スクール体制の構築

(2) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり

#### 主な具体策

⑱ コミュニティ・スクール構築に向けた，学校教育支援の推進

⑲ ボランティアバンクの再整備とよりよい運用

⑳ 放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進

㉑ 子ども会育成会連絡協議会の活動支援

#### 令和元年度重点的取組

施策	(2) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり
主な具体策	㉑ 子ども会育成会連絡協議会の活動支援
目的・目標	子供達が様々な体験活動を通して社会性，自主性を培い，他者への思いやりや自然やふるさとを愛する心を育てる子ども会活動を支える協議会の活性化と事業の推進を支援する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成者の子ども会安全啓発研修等の機会を増やし，単位子ども会や協議会の活性化に寄与する人材育成を図る。</li> <li>・各単位子ども会との連携を深め，「子ども会活動と協議会の役割」について広く理解，協力いただくための広報等の啓蒙活動を展開する。</li> <li>・ジュニア・リーダーの単位子ども会活動への派遣機会を増やし，スキルアップを図ると共に，地域貢献できる人材育成に努める。</li> </ul>

#### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	地域学校協働本部の設立	—	2020年度中設立	2020年度までに設立
2	新ボランティアバンク設立	—	2018年度設立	2018年度より運用
3	ボランティアバンク登録者数 (個人・団体)	206名 (個人・団体含み)	111名 (個人・団体含み)	300名 (個人・団体含み)
4	コミュニティ・スクール体制の確立	—	—	5校
5	放課後子ども総合プランの推進	2校 (南小・金小)	2校 (南小・金小)	3校 (全小学校)



<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会安全啓発研修会として、「子どもの応急処置講習」を1月に主催事業として開催。各単位子ども会、ジュニア・リーダーの参加が例年より多くあり、子ども会活動で起こりやすい事故の予防と予期せぬケガの適切な処置をするための知識と技術を学ぶことができた。（会員参加者42名、ジュニア・リーダー8名）</li> <li>今年度「宮城県子ども会ゆめ活動支援事業」に申し込み、環境整備活動を展開し、子どもの手による子ども会を目指し、より活動を活性化させた地区があった。</li> <li>ジュニア・リーダーの派遣依頼が多方面からあり、子供たちのリーダーとしての地域での活躍が期待され、スキルアップの機会ともなった。（派遣先：児童クラブ、児童センター、各単位子ども会等 11件）</li> <li>ジュニア・リーダー「さくらっ子」新規加入6名（在籍21名）</li> <li>会員数の減少、指導者不足の中ではあるが、単位子ども会ごとに特色ある工夫を凝らした魅力ある活動が展開されている。（手作り凧揚げ、ふれあい物づくり体験会、夏まつり太鼓練習 等）</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10月の台風被害で管内のジュニア・リーダーの交流会等が中止となり、ジュニア・リーダーとしてのスキルアップの機会が少なく、今後は資質と技術の向上に向けて宮城県子ども会育成会連合会主催の研修会等に積極的に参加させる必要がある。</li> <li>現在、43の行政区の内、6行政区が子ども会育成会に未加入で活動が停止・休止状態である。子どもの子ども会育成会への加入状況は、町内全該当数の38%であり、少子高齢化に伴い、加入団体数、加入率の減少など、育成会の存続及び活性化が大きな課題となっている。        今後は、単位子ども会活動の活性化、加入者数減の対策として、       <ul style="list-style-type: none"> <li>*隣の自治会の子ども会と「自治組織」の枠を越えての合併</li> <li>*行政区割りの自治組織から「学校区」を単位子ども会として再編成等が検討事項としてあげられる。</li> </ul> </li> <li>活動のための運営資金に苦慮している地区が増えており、今後は県子連の各種支援事業（補助金）の情報伝達に努め、支援体制の充実を図る。</li> </ul>								
<b>内部評価</b>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<b>外部評価</b>	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「ジュニア・リーダーの派遣依頼が多方面からある」ことは、実に喜ばしい。このことは、ジュニア・リーダーが、地域に大きく貢献していることの表れであり、その指導者の熱意の成果であることを評価したい。</li> <li>◇「こども会育成会」が加入率の減少傾向にある中、「学校区」を単位とする再編案は、その効果が大きいと期待される。</li> <li>□研修等の開催により、単位子ども会やジュニア・リーダーが知識や技術を学ぶことにより、地域貢献できる人材育成に繋がった。今後の支援体制（県子連の各種支援事業）の充実も期待できる。</li> </ul>								

## ◆基本的方向 5 家庭・地域の学びや活動の支援

### 施策

- (1) 家庭教育，子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

### 主な具体策

- ②学校や保育園，幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ③駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ④家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設
- ⑤子育てサポーター，家庭教育支援チームの活動の場の拡大，活動支援

### 令和元年度重点的取組

施策	(1) 家庭教育，子育て世代等の学び支援
主な具体策	②学校や保育園，幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
目的・目標	就学前の子供を持つ親を対象とした家庭教育講座を開催し，子育て期にある親が集まる機会に，子供とのふれあいや実践学習・講話などを通して家庭教育の普及・推進を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の小中学校，公営認定保育園，民間認定保育園，私立幼稚園すべての施設での家庭教育講座「子育て親育ち講座」の開催を目指していく。</li> <li>・新たに，小規模事業保育所での家庭教育講座「子育て親育ち講座」開催を推進する。</li> </ul>

### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	家庭教育講座実施数	12講座	<b>14講座</b>	15講座
2	大河原子育てサポーター「笑」会員数	10名	<b>20名</b>	15名
3	家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設	—	—	2020年度までに創設
4	「絵本と学びのへや」での家庭教育事業	—	<b>実施(4事業)</b>	実施

★家庭教育ネットワーク本部(仮)の創設について、2020年度に地域学校協働本部の創設予定であり、その組織の中で家庭教育のネットワークも確立されますことから、次年度から上記3に地域学校協働本部を挿入したいと考えます。

※「絵本と学びのへや」での家庭教育事業(実施4事業)

- ・絵本のお話し会
- ・プラネタリウムおおがわら星空さんぽ
- ・こども読書週間
- ・ミニシアター

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て親育ち講座」の中で、講話や実習を通して参加保護者同士の交流ができ、参加者の満足度と学習意欲を高めることができた。</li> </ul> <p>①第二光の子保育園 5/24(金) 23名  ②第一光の子保育園 6/4(火) 30名  ③南小学校 6/28(金) 279名  ④金ヶ瀬小学校 7/5(金) 320名  ⑤大河原中学校 7/12(金) 129名  ⑥桜保育所 9/4(水) 44名  ⑦大河原カトリック幼稚園 9/12(木) 110名  ⑧南小学校 10/3(木) 46名  ⑨上谷児童館 10/15(火) 25名  ⑩金ヶ瀬カトリック保育園 11/7(木) 143名  ⑪保育園モンテッソーリ子どもの家 11/8(金) 34名  ⑫いきいきプラザ子育て支援センター 11/14(木) 53名  ⑬大河原児童センター 11/22(金) 36名  ⑭いきいきプラザ児童クラブ 11/27(水) 42名</p> <p>※子育て親育ち講座 14講座 1,314人受講  (幼児・児童546名、保護者730名、職員48名)</p> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中の親へ学習機会が効果的に提供できるよう、更なる工夫が必要である。また、学習に参加できない人への情報提供をどうしていくべきかを検討する必要がある。</li> <li>・講座の講師に係る関係課や、開催施設との連携が円滑に行える体制の構築が今後の課題。</li> </ul>								
<b>内部評価</b>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<b>外部評価</b>	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「家庭教育講座実施数」が2講座増設し14講座となり、1,314人の受講者が相互に学びあう機会は、実に大きな意義がある。企画、運営に当たる職員の皆様の、相当な熱意があったればこそである。</li> <li>◇「絵本と学びのへや」で、家庭教育事業をするという着眼点が素晴らしい。最高の場所での家庭教育事業の、更なる発展に期待が膨らむ。</li> <li>◇大きな成果が見えていますので、評価を是非Aにして頂きたい。</li> </ul> <p>□講座への参加人数が示す通り、親育ちしたい保護者への情報提供が効率的に行われている。また、参加保護者同士の交流は、家庭教育力の向上にも繋がり、目標を大いに達成している。</p> <p>□この成果が、大河原町が住みやすいまちの要因の一つとなっていると思います。</p>								

## ◆基本的方向 6 地域の発展につながる多様な学びの提供

### 施策

- (1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
- (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

### 主な具体策

- ②6 公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
- ②7 ジュニア・リーダーの育成と活動支援
- ②8 青年会活動への助言と活動支援
- ②9 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実
- ③0 高齢者のための生きがいづくり事業の推進
- ③1 町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
- ③2 市民団体（NPO等）との協働・活動支援

### 令和元年度重点的取組

施策	(1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	②9 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実 ③2 市民団体（NPO等）との協働・活動支援
目的・目標	地域の活動拠点としての中央公民館において、さまざまなニーズや実態を把握し、社会教育施設として機能の有効利用を図り、地域資源を最大限生かした昆虫展を開催する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合化された新しい公民館を十分に活用し、幅広い視点から昆虫展を開催し、展示会内容の充実を図り魅力発信に努める。</li> <li>・昆虫展事業を推進するにあたり、ノウハウと知識を持った民間団体の協力を得て、協働活動を推進する。</li> </ul>

### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	講座からの新規社会教育団体の発足	—	1団体	2団体
2	新規NPOの発足	—	—	1団体
3	ジュニア・リーダーの会員数	18名	21名	25名
4	社会教育事業アンケート評価 満足度	—	満足度増加に 取り組み中	増加

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO団体ではないが、地域資源（人的・物的資源）として文化協会団体の大河原昆虫同好会の先生方を講師として、展示標本の選択、会場配置の準備・運営まで関わっていただき昆虫企画展を開催できた。 また、生きた昆虫の展示を行うための個体の手配・期間中の飼育にも携わっていただいたことで工夫に富んだ企画展を開催することができた。</li> <li>・ 小学生・中学生の出品した昆虫の絵の展示会を同時開催。 昆虫の絵と実物の昆虫標本を展示することで、変化に富んだ企画展になった。</li> </ul> <p> *昆虫標本 220 箱展示  *生きた昆虫 日本・外国のカブトムシ・クワガタムシ  タガメ・ゲンゴロウ・水カマキリなどの水生昆虫  *昆虫の絵 185 点  *その他 昆虫に関するパネル展示、渡部 徳氏コーナー、昆虫教室コーナー  *昆虫に係る視聴覚コーナー（DVD） </p> <p>※入場者 636 人</p> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観覧者が毎年新鮮な感覚で観ていただけるよう、昆虫企画展の展示内容に毎回新しい工夫をしていく必要がある。</li> <li>・ 今後、昆虫ボランティア等の募集を行い、民間力を活用した企画展を目指す。</li> </ul>									
<b>内部評価</b>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="336 1099 496 1133">A</td> <td data-bbox="501 1099 1374 1133">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1140 496 1173">B</td> <td data-bbox="501 1140 1374 1173">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 1180 331 1214">B</td> <td data-bbox="336 1180 496 1214">C</td> <td data-bbox="501 1180 1374 1214">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1220 496 1238">D</td> <td data-bbox="501 1220 1374 1238">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	B	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した									
B	目標をほぼ達成した									
B	C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った									
<b>外部評価</b>	<p><b>A</b></p> <p>◇文化協会及び昆虫同好会と連携し、近隣では見ることができない「昆虫企画展」を開催できたことは、実に素晴らしい。特に、生きた昆虫標本を展示できたことは、最高である。更に、入場者数が636人となり、如何に多くの人がこの企画に期待しているかの表れである。</p> <p>◇民間力を活用した企画展の大いなる発展に期待する。</p> <p>◇内部評価を、是非Aに引き上げて頂きたい。</p> <p>□珍しい昆虫標本や各学校の子ども達の昆虫の絵の展示に加え、会場の虫の音の演出など、観覧者への心配りがあり、何より昆虫展の開催自体が親子のコミュニケーションの場になった事は、目標以上の魅力発信に繋がった。</p>									



### 3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

#### ◆基本的方向7 【笑顔】豊かな心の育成

##### 施策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) 歴史や文化に関する教育の推進
- (5) 読書活動の推進

##### 主な具体策

- ③1/2 成人式や立志式, 先輩に学ぶ会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ③4 道徳の教科化の趣旨に基づく, 確実な学習の実施と道徳的实践力の育成
- ③5 防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
- ③6 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実 ・合理的配慮・基礎的環境整備
- ③7 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ③8 おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本事業の継続と改訂
- ③9 学校司書補助員, 駅前図書館, 暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

#### 令和元年度重点的取組

施策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	③1/2 成人式や立志式, 先輩に学ぶ会の実施, おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	夢や志をもち, 将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別の教科「道徳」や総合的な学習の時間, 学校行事等を通じて夢や志をもち, それを高める児童生徒を育てる。</li> <li>・中学生「まちづくり夢・未来会議」を開催し, 次代を担う中学生に町への誇りをもたせるとともに, 町づくりに参画する意識を育てる。</li> </ul>

施策	(2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育, 防災教育)
主な具体策	③4 道徳の教科化の趣旨に基づく, 確実な学習の実施と道徳的实践力の育成
目的・目標	特別の教科「道徳」の授業を通じて, 他者とともによりよく生きる子供を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別の教科「道徳」の実施に向けた教員の指導力向上を図り, 「考え, 議論する道徳」を実践する。</li> <li>・適切に道徳の学習を実施し, またその評価について研修を深める。</li> </ul>

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」将来の夢や目標を持っていますか。(「当てはまる」の割合)	小 78.3% 中 44.3%	小 79.8% 中 45.4%	小 80% 中 50%
2	全国調査「児童生徒質問紙」自分にはよいところがあると思いますか。(「当てはまる」の割合)	小 52.7% 中 21.9%	小 43.9% 中 25.2%	小 60% 中 30%
3	就学相談体制の確立と実施	—	※就学時検診の改善	2018年度開始
4	おおがわらの先人集, おおがわらの暗唱読本, 社会科副読本の改訂	先人集('15) 暗唱読本('16) 社会科副読本('13)	'20 暗唱読本 改訂・増刷	暗唱読本('20) 先人集('21) 社会科副読本('23)
5	町内小中学校図書貸し出し数の増加	79,013冊	77,612冊 (R02.2月末まで)  81,662冊 (2018年度3.4%増)	20%増加



<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳の教科化及び全校道徳の日の開催などにより、小中学校とも「考え議論する道徳」の取組がより多くの場面で見られるようになった。</li> <li>・ 中学生「まちづくり夢・未来会議」を開催し、「夢のある町、理想の未来を描こう！」をテーマにグループごとに具体策を話し合った。「自分たちができること」なども考えながらまちづくりへの関心を深めることができた。また、代表グループ6人を中国に派遣し、国際交流にもつなげた。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査の生徒意識調査から、自己有用感を感じた中学生の割合はやや減少してしまった。他者とかかわりながら、よさを認め合う活動を推進していく必要がある。</li> <li>・ 図書の貸し出し数は、前年度に比べて中学校で倍増したが、全体の数としてはまだまだ少ない。司書教諭や町司書補が連携し、図書に関心をもたせる工夫を施す必要がある。また、3月からは新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業となり、年間貸し出し冊数は前年度より下回っている。今後、新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら、貸し出す必要がある。</li> </ul>	
<b>内部評価</b>	<b>A</b>	目標を上回って達成した
	<b>B</b>	目標をほぼ達成した
<b>B</b>	<b>C</b>	目標をやや下回った
	<b>D</b>	目標を下回った
<b>外部評価</b>	<b>A</b>	<p>◇「道徳の日」開催により、心の教育が一層充実してきたことは、大変喜ばしい。</p> <p>◇中学生「まちづくり夢・未来会議」での話し合いが国際交流にまで発展したことは、中学生にとって大きな刺激となったはずである。この未来会議は、桜のイルミネーション実現のきっかけを作ったこともあるので、是非継続発展させて欲しい。</p> <p>◇コロナにも拘らず、学校図書の貸し出し数が伸びていることは、学力向上の礎を確固たるものにするために、大きな役割を果たしている。指導に当たる先生方に感謝したい。</p> <p>◇「将来の夢や希望を持っていますか」の達成値が、年々向上していることは、目的をもって学習していることの表れである。この志教育は、学力向上に魂を入れることに繋がるので、是非今の指導を継続発展させて頂きたい。</p> <p>◇内部評価はBとなっていますが、大きな成果が見られてるので、是非Aに上げて頂きたい。</p> <p>□小学校での暗唱読本の活用は「読むことに親しむ」習慣になっている。そして中学生も未来会議でまちづくりへの関心を深め、中国での国際交流を通して豊かな心の育成が自己有用感に繋がっている。</p>

## ◆基本的方向 8 【元氣】健やかな身体の育成

### 施 策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

### 主な具体策

- ④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ④①新給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ④②町陸上大会，部活動等を通じた体力・運動能力の向上

### 令和元年度重点的取組

施 策	(1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着 (3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続 ④②町陸上大会，部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	中1ギャップなどによる不登校や学校不適應が課題であることから，生活習慣の改善とともに，何事にも最後まであきらめることなく取り組むことができる「たくましい」子供の育成に努める。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「明日青のつどい」や学校生活等を通じて，自他を認め合い，自己肯定感・自己有用感を高めるための取組を行う。</li> <li>・「たくましい」児童生徒を育成するため，町内小中学校で各教科や行事等で独自の取組「やり抜くタイム」を位置づける。</li> <li>・仙台大学との連携により，効果的な体力・運動能力の向上について研究し，運動好きな児童生徒を育成する。</li> </ul>

## ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」朝食を毎日食べていますか	小 85.0% 中 83.1%	小 86.0% 中 84.9%	小 90% 中 85%
2	県「学習意識調査」ゲーム・携帯時間(2時間以上)の縮減	小 21.9% 中 36.6%	小 16.4% 中 26.4%	小 20% 中 30%
3	給食残食量の縮減	約120kg/1日	121.6kg/1日	20%減
4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする	小男 -9.3 女 -5.2 中男 +10.4 女 +7.7	小男 +3.1 女 +6.5 中男 +5.8 女 -15.6	小 男女とも ±0 中 +0以上継続

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の授業等を通じて、朝食の大切さを啓発したり、家庭の協力を得ながら継続的な呼びかけを行ったりしたことで、全国調査「児童生徒質問紙」から「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒が微増した。特に中学校では昨年度に比べて大きく改善され、目標値に迫ってきている。</li> <li>・「ゲーム・携帯時間の使用時間」が小学校では更に縮減され、小中とも目標値を達成した。長時間の使用は、学習にも大きな影響を及ぼすことから、家庭での時間の過ごした等について、学校と家庭とが連携した取組を継続していく。</li> <li>・令和元年度から仙台大学と連携した体力づくりの取組を行っている。小学生に関しては、平成30年度比、全国平均を上回った実技が1項目増えるなど、当町の児童の体力・運動能力は男女とも全国体力・運動能力調査体力合計点はいずれも全国平均を上回った。令和2年度も仙台大学と連携し、専門家の指導の下、今後も子供たちの体力・運動能力を維持・向上する。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の残食量が2017年度よりも増加してしまった。給食指導や食育の授業等を通じて、児童生徒が好きな献立と栄養バランスのとれた食事をうまく取り入れて啓発していく必要がある。</li> <li>・中学生女子の全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合が全国と比べて大きく下回った。特に立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走等に課題が見られた。体育の授業や部活動を通じて体力・運動能力の向上を促していく。</li> </ul>	
<b>内部評価</b>  <b>B</b>	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
<b>外部評価</b>  <b>A</b>	<p>◇「ゲーム・携帯時間」の使用時間が縮減されていることを歓迎したい。これは、数回の指導では表れない数字で、各学校で継続的な指導があった裏付けである。常日頃の指導に感謝したい。</p> <p>◇「朝食を毎日食べている」達成値が年々向上している。このことは、家庭の食育に対する理解が深まったことと併せて、家庭の教育力が向上していることを表している。学校及び教育委員会と家庭が同一歩調をしているという、大変喜ばしい結果が見えてくる。</p> <p>◇体力向上の問題を、学校だけでなく、体育の専門機関である仙台大学と連携して進める意義は、大きいものがある。</p> <p>◇学校、家庭、教育委員会、大学が連携する、素晴らしい展開が見られます。従って、是非Aの評価をお願いしたい。</p> <p>□給食指導や食育の授業を通じて、朝食を毎日食べる児童生徒が増え、朝食の大切さを伝えることが出来た。</p> <p>□中学生女子の体力が低下しているが、仙台大学との連携により効果的な体力、運動能力の向上が期待される。</p>	

## ◆基本的方向 9 【学力】確かな学力の育成

### 施策

- (1) 基礎的・基本的な学習の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育、情報通信教育の推進

### 主な具体策

- ④3 学力向上策「3本の矢」の継続による基礎学力の定着
- ④4 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための方策
- ④5 おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続と他教科への発展
- ④6 暗唱読本等を活用した言語活動の充実
- ④7 外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実
- ④8 ICT教育への先進的取組（タブレットPCの配置促進）

### 令和元年度重点的取組

施策	(4) 国際理解教育、情報通信教育の推進
主な具体策	④7 外国語教育充実に向けたALT配置の継続と活用の充実 ④8 ICT教育への先進的取組（タブレットPCの活用促進）
目的・目標	外国語教育・国際理解教育の充実、情報通信教育の推進により、子供たちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動の充実に向け、ALTの配置体制の見直しを図る。</li> <li>・外国の学校との交流等を行うことで、多様な価値観や広い視野をもった人材育成を推進する。</li> <li>・タブレットPCの配置やプログラミング教育を推進することで、児童・生徒の「主体的で深い学び」を促進させ、学力向上の一助とする。</li> </ul>

### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(国語、算数・数学の乖離平均)	(2019年度) 小 +2.3 中 -1.8	(2019年度) 小 +2.3 中 -1.8	小 +0以上継続 中 ±0
2	算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続・発展	実施	継続実施	理科・英語等での取組実施
3	ALT招致人数	2人	2人 (民間委託) R2より3人へ	3人
4	ICT機器の整備状況	児童生徒6.2人 に1台	児童生徒4.5人 に1台	児童生徒3人 に1台

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語教育の充実を図るため、町内にALT 2名を民間委託（ジョイトーク）により配置している。また、外国語活動や外国語の指導を担当する教員の指導力向上を図るため、委託業者を含めて外国語活動・外国語担当者会を開催し、研修を深めた。</li> <li>・教員用タブレットPCを活用し、授業での有効活用を進めている。</li> <li>・現在、各学校教員へのタブレットPCについては、すべて配置が完了しているが、今後は、児童生徒1人1台の学習用タブレット端末整備が必要である。このため、子供たち1人1人に応じた個別最適化学習にふさわしいICT環境を速やかに整備するため、各小中学校の高速LAN整備や全児童生徒1人1台端末整備に対応した「GIGAスクール構想事業」に着手し、翌年度の早期工事等を行うため対応を図った。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度より全国調査のA問題とB問題の統一されたことにより、昨年度と単純に比較することができなくなったが、中学校数学で全国平均正答率との乖離がやや大きくなった。生徒の実態に応じた指導のより一層の工夫を行い、苦手克服のための個別支援を継続していく必要がある。</li> <li>・小学校における3, 4年生の外国語活動、5, 6年生の外国語科の令和2年度全面実施に向けて、課題であったALTの配置については令和2年度より3名に増員する予定である。</li> <li>・ICT端末等の活用によりすべての児童生徒が学びを保障できる環境整備が令和2年度に実現する可能性があり、整備後の各学校への学習支援について具体的に考える必要がある。</li> </ul>								
<b>内部評価</b>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="338 1064 496 1093">A</td> <td data-bbox="496 1064 1366 1093">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1093 496 1122">B</td> <td data-bbox="496 1093 1366 1122">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1122 496 1151">C</td> <td data-bbox="496 1122 1366 1151">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="338 1151 496 1180">D</td> <td data-bbox="496 1151 1366 1180">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
<b>外部評価</b>	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中学生が-1.8ではあるが、向上が見られます。また、小学生の+2.3は、高い学力の表れです。1年だけではなく、継続してこの傾向が見られることは、町として大きな誇りである。</li> <li>◇令和2年度から小学校に外国語が加えられた時、ALT 1名増員する意義は実に大きいものがある。また、学校にとっても、大きな救いの手になるに違いない。</li> <li>◇GIGA スクール構想の基、本年度中に、児童生徒1人に1台のタブレットが配置される計画は、時宜を得た素晴らしい取り組みである。コロナ時代を先取りし、先進的な取り組みに大いに期待する。</li> <li>◇算数チャレンジ・数学オリンピックの継続は、勉強で競争する意識を高める効果があり継続を望む。ただ、新たに理科、英語のオリンピックを目標としているが、企画運営を考えた時、大変な労力を要することが予想される。働き方改革が叫ばれている時なので、どうか、無理なくできる事業計画を立てて頂きたい。</li> <li>◇学力が向上している達成値と、新たにALTの増員、タブレットの全児童生徒への配布と教育環境の充実が見られる。評価はAで良い。</li> </ul> <p>□ALTの配置を3名に増員し、外国語教育の充実を図っている。</p> <p>□基本的方向7の豊かな心の育成でも取り上げられていた国際交流を行うことで、多様な価値観や広い視野を持った人材の育成に繋がっている。併せて、(1)の基礎的、基本的な学習の充実も大切になってくると感じる。</p>								

## 4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

### ◆基本的方向 10 学校組織力の向上

#### 施策

- (1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
- (2) 幼・保・小・中連携教育，異校種間連携の推進
- (3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

#### 主な具体策

- ④9カリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
- ⑤0新学習指導要領実施に向けた，学校体制の確立
- 51 幼・保・小連携による接続カリキュラム，スタートプログラムの作成
- 52 学校評議員制度の充実とコミュニティ・スクール体制の構築 →生涯学習との連携

#### 令和元年度重点的取組

施策	(1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
主な具体策	⑤0新学習指導要領実施に向けた，学校体制の確立
目的・目標	新学習指導要領により教科化された「特別の教科道徳」や小学校で新設された「外国語活動・外国語」，「プログラミング教育」等の適切な実施に向け，教職員の指導力・資質の向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科道徳」，小学校における「外国語活動・外国語」の実施に向けた校内体制を確立する。</li> <li>・町内教職員研修会等において「プログラミング教育」に関する研修を実施し，教職員の資質・技能向上を図る。</li> </ul>

#### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	34.1%	32.6%	45%
2	町内英語・外国語担当者会，研修会の実施	—	R1.8月.12月, R2.2月実施	2018年度
3	接続カリキュラム，スタートプログラムの作成・実施	—	スタートプログラム作成	実施
4	コミュニティ・スクール体制の確立	—	—	5校

<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科道徳」、「外国語活動・外国語」に関する町内教職員研修会を継続して実施するとともに、新たに「プログラミング教育」に関する研修も実施して教職員の指導力の向上や体制づくりを図ることができた。</li> <li>・、幼・保から小学校生活への円滑な接続を図るため、幼・保・小連絡会担当を中心としてスタートカリキュラムの計画を作成した。令和2年度から各小学校の年間計画への位置付けを図り、実践する。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール体制の確立に向け、生涯学習課における地域学校協働本部の設立及び大河原町学校運営協議会規則の策定等、段階的な取組が必要である。</li> </ul>	
<b>内部評価</b>	<b>A</b>	目標を上回って達成した
	<b>B</b>	目標をほぼ達成した
<b>B</b>	<b>C</b>	目標をやや下回った
	<b>D</b>	目標を下回った
<b>外部評価</b>	<p><b>B</b></p> <p>◇「町内英語研修会」の企画は、新教科増設に合わせた必要欠くべからざる事業であり、時代の流れを読んだ、素晴らしい研修でもある。</p> <p>◇コミュニティ・スクール構想は、将来必要になってくるものである。ただ、今、新教科英語の対応、プログラミング教育、ギガスクールと、学校には次々と新しい事業が課せられ、併せてコロナウイルスで、授業日数が不足し、多忙を極めていいる現状である。必要ではあるが、無理のない計画を立て、スタッフがゆとりをもって企画できる事業を立案して頂きたい。</p> <p>□「特別の教科道徳」「外国語活動・外国語」に関する研修会に併せ、新たに「プログラミング教育」に関する研修も実施し、学校体制の確立が成されている。幼・保・小の連携についても今後大切になると感じる。</p>	

## ◆基本的方向 1 1 教職員の資質・指導力の向上

### 施策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

### 主な具体策

- 53 町内教職員研修の継続実施，県総合教育センター等研修への積極的参加の推進
- 54 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善  
(校務管理システム，緊急時連絡用留守番電話の設置等)

### 令和元年度重点的取組

施策	(3) 教職員の多忙軽減の推進
主な具体策	54 ICT機器等の整備，部活動支援による業務改善
目的・目標	教職員の働き方改革の一助として，ICT機器の導入及び活用を推進し，業務の改善・軽減を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用研修会を適時実施し，教員のICT活用スキルの向上を目指す。また，活用状況について把握しメリット・デメリットについて検証を行う。</li> <li>・非接触ICカードによる出退勤システムにより本格稼働し，教職員の勤務状況を正確に把握するとともに，統合型校務支援システムの導入を促進し，業務の改善を行う。</li> </ul>

### ★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のICT活用指導力の状況」(わりにできる)	14.9%	<b>23.3%</b> (2018年度末)	30%
2	時間外勤務の縮減 (各校種1日あたりの平均時間)	(17年度予想値) 小1時間54分 中3時間20分 (18年度実測値) 小2時間42分 中3時間31分	小 2時間 7分 中 2時間 51分 R02.2月現在	20%縮減
3	ICT校務管理システムの普及率	20%	<b>40%</b> 大小・大中で試用 2020年度5校導入	100%



<b>成果 課題等</b>	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の働き方改革に向け、統合型校務支援システムを大河原小、大河原中の2校に導入し、事務処理の軽減を図った。「平成30年度よりも毎日30分早く帰ろう」をモットーに取り組んだ結果、小中学校ともに1日あたりの勤務時間は30分以上の縮減につながった。</li> <li>・ICT機器の整備促進及び教員のICT活用の研修により、教員のICT活用指導力が向上した。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムを残り3校にも導入し、町内で処理方法を統一しながら事務処理の軽減を図る。県の「教職員の働き方改革に関する取組方針」の中で、月80時間を超える教職員の割合を令和3年度までにゼロにする指標が示されたことから、大河原町としての「教職員の働き方改革に関する取組方針」を策定し、さらなる業務改善を行っていく。</li> </ul>	
<b>内部評価</b>	<b>A</b>	目標を上回って達成した
	<b>B</b>	目標をほぼ達成した
<b>B</b>	<b>C</b>	目標をやや下回った
	<b>D</b>	目標を下回った
<b>外部評価</b>	<p>◇働き方改革が叫ばれる中、校務管理システムを2校導入出来たことは、大きな意義がある。今後、その成果を生かし他の3校にも広げることで、残業時間を少しでも減らせるように願っている。</p> <p>◇前年度より30分早く退勤する運動の展開により、教員の激務改善に少しでも効果が見られたことは喜ばしい。</p> <p><b>B</b></p> <p>□先生方のICT活用の研修により活用指導力が向上していることや、ICT校務管理システムを2020年度5校導入する等、目標を達成している。</p>	

## ◆基本的方向 1 2 安心して学べる教育環境づくりの推進

### 施 策

- (1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助，育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実（防災教育）
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

### 主な具体策

- 55 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー活用の充実
- 56 おおがわら子供の心のケアハウス事業の継続
- 57 各種援助・支援等の適正受給
- 58 安全担当主幹，防災主任による学校危機管理マニュアルの整備，防災訓練，体制の確立
- 59 学校だより，ホームページ，緊急メール配信，広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 60 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討

### 令和元年度重点的取組

施 策	(1) いじめ・不登校対策，教育相談等の充実
主な具体策	56 おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続
目的・目標	「おおがわら子どもの心のケアハウス」を継続して運営し，不登校に悩む児童生徒，保護者の不安を軽減するとともに，復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のケアハウスの安定した運営を継続し，児童生徒の学力の保障を軸とした，学校復帰を目指す。</li> <li>・心のケアハウスと学校との連携をさらに密にし，不登校の予防と早期対応を目指す。</li> </ul>

施 策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	60 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内学校へのエアコンの設置により，児童生徒の学習環境を整えるとともに，体調管理を推進する。</li> <li>・新給食センターの設置により，安心安全な学校給食を提供し，安定した運営を行う。</li> <li>・老朽化した学校施設について，優先順位をつけ改修や長寿命化対策等を行う。</li> </ul>
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内学校へのエアコンの設置を行い，適切に運用する。</li> <li>・新学校給食センターの建設を完了し，その運営を適切に実施する。</li> <li>・大河原中学校体育館の改修等について計画を策定する。</li> <li>・適正規模の学校の在り方を検討する。</li> </ul>

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2019年度)	目標値 (2022年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業による実施	県補助事業により継続	町独自財源による継続実施
2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 0.15% 中 4.14%	小 0.92% 中 4.87%	小 0%に近づける 中 3%以下に
3	各学校区における地域連携防災訓練の実施満足度	34.9%	31.7%	40%
4	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」(各学校のよくあてはまる等の項目)	41.5%	41.2%	50%
5	建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施	40%	R2年度大中体育館着手	60% 大中体育館等

成果 課題等	<p><b>《成果》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心のケアハウスの運営は、令和元年度も県補助事業により継続し、不登校に悩む児童生徒や保護者への支援等で大きな役割を果たしている。</li> <li>令和元年度は、熱中症対策として各小中5校すべての普通教室及び特別教室の一部にエアコン設置を図り、運用ガイドラインに沿った適切な運用を行い、児童生徒の健康管理及び学習環境の改善を図った。</li> <li>新学校給食センター建設について、令和元年7月31日に完成し、2学期からは、より安全安心な学校給食が開始できた。</li> <li>安全で安心できる学校施設整備を図るため、老朽化した大河原中学校体育館について、屋内運動場耐力度調査及び将来計画策定業務に着手し、国の補助事業要件となっている危険改築事業の承認を受け、令和2年度からの設計業務対応を図った。</li> <li>学校施設については、築40年を経過する建物が複数あり、計画的に改善する必要があるため、今後10年間の改修計画を定めた学校施設等長寿命化計画を策定した。今後は、本計画に沿った適切な各学校の改修事業を行うとともに、学校全体のあり方についても総合的に考えた優先順位をつけた整備が必要である。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の出現率は改善されていない状況にある。今後ともケアハウスや別室登校など、子どもたちが安心して学べる居場所を確保するとともに、心のケアハウスと学校との連携を密にし、不登校の未然防止を図っていく。</li> <li>各学校の校舎及び体育館については、今後、令和元年度に策定した、「学校施設等長寿命化計画」に沿った改修事業を実施していく必要があるが、エアコン設置事業、トイレ改修事業、GIGAスクール整備事業、大中体育館建替え事業と、大規模な事業を毎年実施するため、町の財政負担増による財源確保が問題である。今後10年後の第2期長寿命化計画では、学校の統廃合も視野に入れた計画が必要である。</li> </ul>							
	<p><b>内部評価</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>目標を下回った</td> </tr> </tbody> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D
A	目標を上回って達成した							
B	目標をほぼ達成した							
C	目標をやや下回った							
D	目標を下回った							

<p>外部評価</p> <p>B</p>	<p>◇数十年に一度しかできない、給食センター建設、小中学校すべての普通教室にエアコン設置、トイレ改修事業、ギガスクール整備事業等を、短時間に実現した大河原町及び教育委員会、そして関係機関の一致団結した取り組みは、大きな賞賛に値する。</p> <p>◇「おおがわら子どもの心のケアハウス」事業の継続は、個人的事情を抱える子供は勿論、保護者や地域の皆様からの喜びの声となっている。町独自財源になっても是非継続を願う。</p> <p>□おおがわら子ども心のケアハウスは不登校に悩む児童生徒や保護者への心の支えになっている。安心できる居場所があることの大切さを感じるので今後も学校と連携して子ども達に寄り添って頂きたいと思う。</p>
----------------------	--

